

4月定例記者会見 会見録

4月3日(火)11:00～

質疑応答

■土砂等の埋立て等の規制に関する条例について

記者

事業者に対する欠格事項を定めるという改正案ですが、暴力団員は関係がありませんよなど当然のことかなと思ったんですが、あえて設けるということは、欠格事項に該当するような事例があったり、市民からそういう声があったということなんでしょうか。

市長

主に今回大きいのは、過去5年以内に違反を犯した事業者が事業をできないようにするというもので、市内各地様々な事例がありますので、どこかの事業者を狙い撃ちにしているようなことではありませんが、この欠格事項がつくばにないことによって、他自治体だけでなく、つくばが、ある意味狙われているような状況にあると考えておりますので、それに対する対策を設けたということです。担当から説明します。

生活環境部長

この度条例改正する内容ですが、ご指摘の通り暴力団関係ですとか5年間において罰金の刑を処せられていないとか、本来あるべき姿が、この条例では抜けていたものですから、それを補うという意味で、条例をより完成させるために今回、条例を改正します。

中身については、さらに、破産者であるとか禁固刑以上の刑に処せられているものですとか、7項目を定めております。その中にはご指摘の通り暴力団の関係者も含まれております。

記者

なぜこのタイミングで改正するのかをお聞きしたいのですが。

生活環境部長

本来、条例を制定するときにやっておくべきでしたが、それが抜けていたものですから、今回改正することとしました。

記者

抜けていたということなんですけれども、抜けたまま条例制定されてしまった、
というのはどうしてなんですか？

生活環境部長

すみません。そのいきさつを、私は担当していなかったものですから、お答え
できません。県の条例の中にこの 7 項目入ってますし、そういったものが本来
あって当然だということがあって、今回改正いたします。

記者

市として追記をしたというのは何かきっかけがあったのか、例えば市民からの
声があったりとか、そういう背景はありますか？

生活環境部長

市民からの声というより、本来あるべき姿に改正するということです。

■働き方改革について

記者

働き方改革の部分なんですけれども、直接この部署と関係があるかわからなか
ったのですが、RPA の共同研究が昨年度始まったと思います。まだ本格導入に
ついては検討するという事だったと思うのですが、その目途について、今後
についてはどうなっているのでしょうか？

市長

今報告をまとめているところですので、その状況を見て取り組んでいきたいと
思っておりますが、頭にあるのは全面導入していくという考えで、今感じてい
る課題としては、RPA のソフトに触れる職員が各課にいる方が、より効率が上
がると思っております。そういった人材を各部に少なくとも 1 人は育てていき
たいと思っております。

記者

実際に効果としてあったのでしょうか？

市長

今その報告を待っている状況です。まだその報告がありませんので。もう少し
お待ちください。

記者

各課に人材1人ずつ置くのは、その報告を待ってからということですか？

市長

そうなります。まず間違いなくいろんな形で効果があると思います。ただ結局、RPAを組み立てるときに、その課の業務を理解するまでの時間が非常にかかるということでしたので、その課の業務に最初から精通している職員が組んでいけば、より効果が出やすいんじゃないかなと思っておりまして、そういうことを、これから庁内に広げていきたいと考えております。

記者

早ければいつ頃とかというお考えはありますか？

市長

4月中にはその報告がもらえると思いますので、それとあわせて。ただ、庁内にそれができる人材がどのくらいいるのかということにかかわってきますね。

政策イノベーション部長

ただ今の件ですが、作年度内いっぱいまで共同研究を行ってございましたので、その結果を、今まさに分析しているところです。目標としましては、今月中に市長、副市長に報告をしたいと思っておりますが、公表に関しましては、おそらく5月以降になるかと思っております。できる限り定量的にその効果というものをお示ししたいと思っておりますので、その結果を踏まえて、まずはRPAの効果が見込めるところをターゲットに導入を進めて、そのグッドプラクティスを全体として広めていくという流れがよいのかなと考えております。

■図書館について

記者

中央図書館のサービス拡充についてですが、今土浦で市立図書館アルカスや自転車のリゾートPLAYatreがかなり盛況で、つくば市としてはある意味ライバルというか、人の流れが変わるんじゃないかというところもあると思うのですが、図書館の活用ですとか今後どのようにしていきたいか改めてお考えをお聞かせいただければと思います。

市長

私も、先日、土浦市立図書館を見てきました。非常に素晴らしいもので、感激

をしているところです。やはり近隣の自治体があのように素晴らしいものを作っていくというのは刺激にもなりますし、お互いにいいものができるよう、中川土浦市長にもいろいろ御指導いただきながら、つくばの取り組みを進めたいなど思っております。図書館については、クレオ跡地がどうなるかということにも密接にかかわってくる問題ですけれども、いろいろな状況を見極めながら、つくばらしい図書館とはどういうものなのかを、私の公約にもなっておりますので、みんなで議論していくような、そういう機会を持っていきたいと思っています。

記者

議論していく機会というのは、具体的にイメージがありますか？

市長

先日、図書館の議論をするための懇話会のメンバーを3月半ばまで公募し、今、その選考をしているところです。市民公募委員に入ってください、もちろん専門家を交えながら市民とともに考えていきたいと思えます。

■働き方改革について

記者

働き方改革について、モデル部署の取り組み結果が公表されていますけれど、一部の課では時間外勤務時間数が前年と比べると増えているところもあって、減ったり増えたりといろんな効果が出ているとは思いますが、市長としてはこの結果についてどのように評価をされているのでしょうか？

市長

全体の残業時間は、1年で見ると時間外勤務時間数が前年度比2.2%(平成30年2月末現在)減っているという結果でした。私が市長に就任してから確実に仕事は増えているわけですね。基本的に今まで取り組んでいなかった新しい取り組みというものを、かなり職員にやってもらっていますので、そういう意味で職員は大変な思いを今しているわけです。ただ、そういう中で、時間外勤務時間が減っているというのは、より短い時間で良いアウトプットをしてくれているからということで、おそらくこれまでと比べれば、さらに効率的な働き方を、常に意識してくれているんだろうと解釈しています。

記者

新年度ではモデル部署を増やすという話でしたけれども、だいたいどういった、

どれくらいの数としてイメージされているのか教えていただけますでしょうか？

市長

これから選定はしますけれども、前期で3部署、後期で3部署、計6部署くらいできればと考えております。そして、モデル部署にならなくても、ワークライフバランス推進室が、例えば各課のミーティングに順次出て、そこで改善をできることを探していくような、あるいは議論をみんなですていくようなものにしたいと思っています。やはり既存のメンバー、担当課の中ですと、今までやっていることだからどうしても無駄に気づけなかったり、あるいは仕方なくやってしまったりということがあると思うんですが、ワークライフバランス推進室のメンバーを中心に、ある意味外部の視点を入れていくことによってもっと改善できるのではないかと、そういったことを、モデル課に限らずやっていこうと思っています。

記者

外部の視点というのは？

市長

外部というのはワークライフバランス推進室。課外の、各課を見ているワークライフバランス推進室が、現場の業務をやっていない視点での指摘をしてほしいということです。

■ G20 について

記者

G20 の関係なんですけれども、つくば市で開催されることになった意義について、改めて伺えますでしょうか？

市長

やはりつくばは研究学園都市でありますし、デジタルやイノベーションは、今まさに力を入れている部分ですので、大変価値があることで、本当に関係者の努力に敬意を表したいと思います。大事なことは、レガシーをどのような形で作っていくかということだと思っています。抽象的な魅力の発信ができたとか、そういうことではなくて、やはり、今回、貿易・デジタル経済大臣ということですので、例えば地域でデジタル系のスタートアップ企業のネットワークを作っていくとか、ゴールを明確に持った上で、もちろん成功させていくた

めの準備は万全にやりますけれども、そういったものをこれから県や筑波大学などと相談をしながら、取り組んでいきたいです。

記者

今現在、大学との連携で何か想定されているものですか、もしくは予定されているものはあるのでしょうか？

市長

これはまだ。これから、大学と相談をしないといけないと考えておりますけれども、今筑波大学も永田学長のリーダーシップで非常に積極的に、例えば昨日も新聞の朝刊に出ていましたが、データサイエンティストの養成というのを日立などと連携して 5 大学と共同で行う、その中に筑波大学の名前がありました。筑波大学は、デジタル分野においても非常に力を入れて、それから人材育成などもやってらっしゃいますので、永田学長といろいろご相談しながら、どういうことができるかを考えていきたいなと思っております。

記者

今の関連になるかと思うんですが、もちろん G20 のレガシー部分というのも大事だと思うんですが、市民、地元で開かれるということで、地元の気運を高めていくことも、大事だと思うんですが、つくば市として独自で考えていることはありますか。

市長

はい、その部分は非常に重要だと思っております、G7 のときは、やはり市民とのつながりという部分は、おそらくもう少し課題もあったのかなと思っております。もちろん当時も様々なイベントが行われましたが、市民が G7 を歓迎している雰囲気が町中にあふれていたかという点、おそらくそういうことにはなっていなかったのかなと思っております。ですので、どういうプログラムがあるのか、あるいは子どもたちの教育にどうつなげていけるか、なんていうことをこれからいろいろな機関と相談をしながら、やっぱり市民にとってメリットがどうあるのかということ、市として明確に整理をして、その整理された絵の中でそれぞれのプログラムを実施していくということが必要です。打ち上げ花火に終わらせるのではなく、全体が整合性を持った中で動かないと、市民からすれば、G20 よりも保育所の方がよっぽど大事だという声も出るでしょうし、実際そのあたりはちゃんと整理して G20 が長期的にどんなメリットがあるか、短期的にどういうものがあるのかということはお示しをして、市民の協力もし

ていただかないといけないわけですから、そこは決して市民が置いてきぼりにならないようなことを考えていきたいです。

記者

開催まであと1年ちょっとなので、市として、どういうプログラムをやるか、イベントをやるのかということについても、それほど時間の余裕はないと思っています。今具体的な物がないというのは理解できるのですが、いつ頃アウトラインというか概要を示そうと思っていらっしゃいますか。

市長

まず、会議全体がどのような形になるかということも、まだ見えていない状況です。県が主体で事務局を作りまして、その事務局につくば市としてどういう関わり方をするかということもこれから県と相談しなくてはなりません。そのような中で大きな枠組みが見えてきた中で動いていく事になります。今、時期としていつ何を決めていくということは、まだ判断できる状況にはないです。

■土砂等の埋立て等の規制に関する条例について

記者

担当課から教えてください。今回規制をかけるような暴力団員等、こうした欠格事項に該当するような事業者が過去に埋立てをした事例があるのかどうか、教えてください。

廃棄物対策課長補佐

今把握しているところでは、そういった事項にあたる業者が、やったということはないと考えております。

■図書館について

記者

先ほど、図書館のあり方を議論する委員の方を今選考されているという話がありました。そうすると、これはクレオへの公共施設のあり方ということと関わってくるのかなと思うのですが、図書館の懇話会委員の方が決まって、何らかのビジョンを作った後に、市としてのあり方はこんなものだと提出する、そんなイメージなのでしょうか？

市長

タイミング的には非常に難しいな、と正直考えております。クレオの跡地も、

当初はもう少し早く方向性が出ていることを想定していました。それが少し筑波都市整備に入ってくる状況が遅れているようですので、それに併せて多少遅れていくだろうと思っております。その開催の開始時期をどうするか、また、テーマ設定をどうするかと言うのはもう少し整理をしないといけないなと思っております。ただ、どのような図書館が理想的かという話は当然できますし、今の図書館の課題が何かという議論は既にできると思っていますので、そういった中でその1つのピースとしてあの場所クレオをどうするのかという事が議論に加わると思うのですが、そこはこれから担当課で中身を詰めてからの開催にしたいと思っております。

記者

具体的には、前々から状況があまり変わってないという話だと思うんですけど、4つの選択肢を市長は示されましたけれども、例えば、筑波都市整備の方ですね、売る目処が立っているとか、あるいは賃貸の目処が立っているとか、そういう状況っていうのはないんでしょうか？

市長

はい、把握している限りにおいては、まだ方向性は定まっていませんので、我々としても議会で申し上げたとおりの状況です。そしてそれぞれについての可能性を検討している状況です。

記者

つまり、市としては筑波都市整備側でここは売るとか、ここは借りるというビジョンとかそういうものができた後に、市として公共施設のあり方としてこういうものを提示するというイメージなんでしょうか？

市長

できた後とか、その情報が揃った後に方向性が固まってからの話になります。手遅れにならないようなタイミングが大事だと思います。

■義務教育学校の在り方について

記者

義務教育学校が5日に開校しますが、急速に子供の数が増えていって、校舎が子供の急増に追いつかない実態もあるようで、結構見極めが難しいと思うんですが、今後の方針とか、何か戦略とかがあるのでしたら教えてください。

市長

御指摘のように見極めは非常に難しくてですね、当座 2 つのことが考えられると思っています。1 つは門脇教育長は関わってはおりませんが、第三者委員会で小中一貫校の検証を行っております。この検証結果が 7 月に出ます。もう 1 つは、人口増に関して、各地区で、確認審査をして建築確認をしたものが、出揃ってくるのが、5 月から 6 月ですので、それによつての将来推計というもの、街区単位というよりも個別の建物単位での人口推計により、できる限り正確な人員増の類推をしていき、その上でじゃあどこにどれぐらい足りないのだろうかということをして、学校配置の適性をしなくてははいけません。今の中学校で足りるのか？そういったものをまず出して行って学区を、その上でどうするのかというのは当然、審議会に図りながら決めていくという過程が必要になりますので、今はそういったデータを揃える段階であり、同時に市の小中一貫校のあり方についてもどのようなものが出るか。私も教育長も内容を一切知りませんので、その報告を見た上で、新しく整備する必要があるとどこに整備する必要があるのだろうか、どういう形のものを整備する必要があるのか、というのを精査していきたいと思っています。

■市街地の今後について

記者

すいません。今の関連するんですけれども、確かに市の中心部の人口が増えて、また新たに義務教育学校が新設になっていますけれども、旧筑波町の方では秀峰筑波が逆に人口減で、統合されたという背景がありまして、こういったその中心部と市街地の進行の違いですとか、そういったものに対応する周辺部に、市長としてどういう風に考えられているのか教えていただけないでしょうか？

市長

9 校が閉校になりまして、そして新しい学校ができるということはもう決まっていますので、これも教育長とその話をしながら、とにかく良い学校を作っていく、なんとしても秀峰筑波を成功させるんだということが非常に大きなテーマであります。一方で人口減少は確かにしておりますし、平均出生率も 1 に満たないエリアですので、やはり今後の対策というのは考えていかななくてはと思っています。それも今、周辺市街地振興室を中心にどういう形のものあれば、ここに人が住めるのか、仕事ができるのか、人が来るのか、ということをして市役所が何か押し付けるのではなく、地域の皆さんに集まっていただいて勉強会を今、小田地区と谷田部地区で行っております。今年度各地区で開催をして行く

予定です。そういった中でさまざまなアイデアが出てきたりすれば、そういったものに対して市としても予算をつけていくようなこともできていると思っています。実際に私もこの前の週末は2日ともこの筑波地区におりましたが、北条地区や筑波地区で、「ゆけゆけ乙女のつくば道」というイベントが行われていて、各店舗で様々な取り組みをしたり、それに合わせていろんな動きがあったりとか、北条には新しいうどん屋さんもオープンして、これも市の補助金を使っていると思いますが、そういう新しい動きは生まれてきています。改めて歩いて感じたのは、魅力が非常に詰まっているなど、それをどう表現していくかということ、やはり地元の皆さんと一緒に考えていきたいと考えています。周辺市街地に行くと、私が「このエリアの魅力はこんなところですよ」と言うと、地元の方は「そうなのかな？」とおっしゃるんですが、やっぱり外から見て素晴らしく、キラリと光るものはたくさんありますので、それをどう市としては繋ぎ合わせていって、面として光らせていくかということなんですが、人口は、今は確かに減っていますが、いろんな形が可能性としてはあるんだろうと思います。